

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所の 研究棟正面入口へ再出現したフナムシ（甲殻類）

久保田 信

Reappearance of *Ligia exotica* (Crustacea) at the entrance of the front of
research building of the Seto Marine Laboratory, Kyoto University,
Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan

Shin Kubota

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所（〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459）

白浜半島先端に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所の北側にある通称“北浜”（砂浜部の長さは約 400 m）で、や番所崎などの海岸一帯に毎年群れるフナムシだが、活動期でも瀬戸臨海実験所構内の研究棟付近に出現することはまずない。しかし、1998 年 6 月 19 日午後 9 時頃、研究棟の 2 階の東端に位置する久保田の研究室内に初めて出現し、それ以来、今日に至るまで研究棟内部に全く出現したことがない。この発見以前の少なくとも 7 年間もフナムシは研究棟で見つかっていない（久保田ほか、1999）。フナムシが瀬戸臨海実験所構内に出現した全地点については、久保田（1999）に示されている。この他、これまでたった一度だけだが、1999 年 9 月に、研究棟北側の 1 階の窓に網を張ったナガコガネグモがフナムシを捕らえて食べていた例もある（久保田、2000）

フナムシは、瀬戸臨海実験所研究棟の東側に接続する図書室でも出現が極めて稀で、図書に司書として 20 年以上勤務している興田道子さんは、生きたのを見たことはないが、干からび

た個体が稀にあったという。これらの 2 つの建物は実験所構内の中央に位置し、乾燥した砂地に立っており、砂地を普段移動しないフナムシはこのような所まではやってこないからである（久保田、2006）。また、建物を頻繁に掃除をしていることで自然状態ではないことと、乾燥機を設置しているので、出現が困難になっているのであろう。

しかし、研究棟付近に現れる場合が稀にあって、初めてこの事例に遭遇したのは 2005 年 3 月 11 日午後 10 時頃で、研究棟南側のアスファルトで舗装された道路上で、その年初めてフナムシ 1 個体を発見した。その後 1 ヶ月ほど過ぎた同年 4 月 19 日の早朝、最初の発見地点の近くの研究棟の西側の舗装された道路上で、1 個体のフナムシが死亡していた。この個体はどこにも外傷が見つからず、自然死したと思われる（久保田、2006）。

このような状況の中、今回、2011 年 7 月 29 日 22 時 35 分に瀬戸臨海実験所研究棟の正面入口の壁に 1 個体の元気なフナムシが再出現した（図 1）ので記録しておく。さらに 2011 年 9 月

28 日 6 時 45 分に研究棟西側のアスファルトで舗装された道路上で、フナムシの死亡 1 個体を発見した。同時に、すぐ近くの研究棟南側の舗装された道路上で、別の 1 個体のフナムシが死亡していた。さらに、2011 年 10 月 23 日 19 時 13 分に瀬戸臨海実験所研究棟の正面入口の壁に 1 個体の元気なフナムシが出現した



図 1. 瀬戸臨海実験所研究棟正面入口に
2011 年 7 月 29 日に出現したフナムシ

なお、2010 年春季に、いつのまにか死亡していたフナムシの 1 個体が、研究棟 1 階の顕微鏡室の流しで発見された稀少例もある（図 2）。



図 2. 2010 年春季に研究棟 1 階顕微鏡室で
死亡していたフナムシ

引用文献

- 久保田 信. 2000. ナガコガネグモ *Argiope bruennichii* フナムシ *Ligia exotica* を摂食. 南紀生物, 42(1): 28.
- 久保田 信. 2006. “宝の海から 白浜で出会った生き物たち”, 233pp. 紀伊民報.
- 久保田 信・田名瀬 英朋・布村 昇. 1999. 瀬戸臨海実験所研究棟内にフナムシ（甲殻綱、等脚目）が初めて出現. 南紀生物, 42(1): 137-139.